

**【資料1】**

**令和2年度水道事業会計決算について**

**令和3年11月24日**

**柏市水道事業運営審議会**

## 《はじめに》

公営企業の経理は、企業としての経済性を発揮する必要性から、一般会計で行われている官公庁会計方式と大きく異なる企業会計方式を採用しています。

このため、水道事業会計の決算を御理解いただく際の参考として、公営企業会計の仕組み等に関する簡便な説明を付した本冊子を作成しました。

本年度が初めての取り組みであるため、至らぬ点もあるかと存じます。お気づきの点等があれば、水道部総務課（財務担当）まで御連絡くださいますよう、お願い申し上げます。

## 《目次》

項 目	頁
§ 1 公営企業会計の特徴について	1
§ 2 公営企業会計の構成	2
§ 3 収益的収支と資本的収支について	3
§ 4 収益的収支と資本的収支の関係	4
§ 5 令和2年度決算の概要	5～9



# § 1 公営企業会計の特徴について

## 1 地方公営企業とは

地方公営企業とは、地方公共団体が、住民の福祉の増進を目的として設置し、経営する企業のことです。一般会計で管理する一般行政事務に要する経費が租税等により賄われるのに対し、公営企業は、提供する財貨又はサービスの対価である料金収入によって維持されます。

柏市の水道事業は、地方公営企業法第2条1項の規定に基づき、地方公営企業として事業を行っています。

## 2 一般会計（官公庁会計）との違い

### (1)現金主義ではなく、発生主義である

現金の収支にかかわらず経済活動の発生事実に基づき整理されます

### (2)期間計算（費用配分）の考え方がある

その年度の収益の獲得につながったと考えられる部分だけがその年度の費用として整理されます

### (3)損益取引と資本取引の区分がある

1年間の経営成績を表す収益的収支、施設の建設・改良等の事業費とその財源を表す資本的収支の2つの会計があります

### (4)資産、負債及び資本の概念がある

「資産」は資金の運用形態を示し、「負債及び資本」は資金の調達方法を示します

### (5)予算及び決算の双方を重視する

歳出の規制だけではなく、経済性の発揮が求められています

## § 2 公営企業会計の構成

### 公営企業会計は収益的収支と資本的収支の2本立て

一般会計（官庁会計）では、一切の収入を歳入とし、一切の支出を歳出としています。

これに対し、公営企業会計では、「収益的収支」と「資本的収支」を区分して経理をする2本立てとなっています。

事業管理に関する会計（収益的収支）と建設改良等に係る会計（資本的収支）を区分することにより、当該事業年度の経営成績を正確に把握することができます。正確な経営成績を把握することで、事業の効率性や生産性を検証することができます。

#### (1) 収益的収支

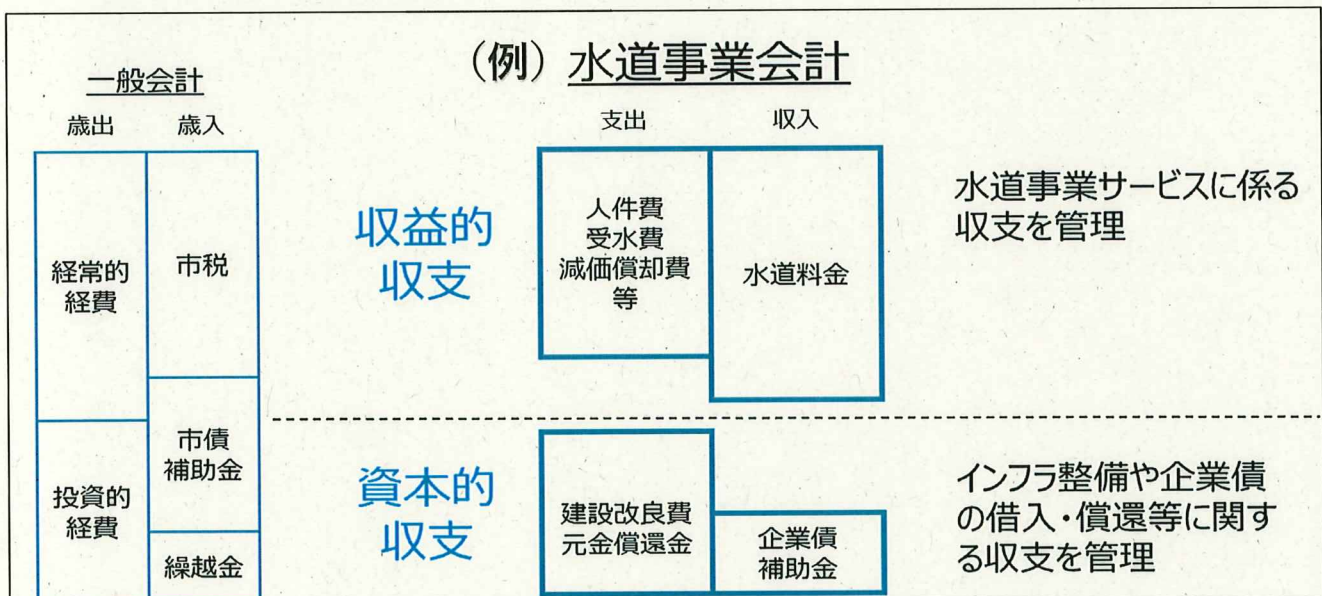
収益的収支は、主に本業である事業に係る収入と支出を管理するもの。

1年間の事業の経営成績を示すもの。

#### (2) 資本的収支

主に水道事業に必要なインフラ整備及び企業債の借入・償還等に係る収支を管理するもの。

1年間のインフラ整備の状況を表すもの。





### § 3 収益的収支と資本的収支について

#### 1 収益的収支とは

収益的収支とは、1年間の企業経営に伴い、発生する収益と費用を表したもので、企業としての経営成績を示すものです。

収益的収支	
支出	収入
運営管理費 等	水道料金 等
減価償却費	
当期純利益	長期前受金戻入
	積立可能額

インフラ整備のための財源	
損益勘定留保資金	減債積立金
	建設改良積立金

収入：サービスの対価

支出：サービスの提供に係る経費

通常、この収益的収支は支出よりも収入が多くなるように設定されます。

この収益的収支で獲得した利益は内部留保資金となり、インフラの整備のための原資となります。

これら利益に加え、現金支出を伴わない費用である減価償却費等についても、内部留保資金となり、インフラ整備のための原資となります。

#### 2 資本的収支とは

資本的収支とは、インフラの整備など、その支出の効果が次年度以降に及ぶものや、企業債の元金償還などの支出と、その財源となる収入を表したものです。

資本的収支	
支出	収入
建設改良費 企業債償還金	企業債 補助金 等
	収支不足額

収入：インフラ整備のための資金

支出：整備費や償還金等

資本的収支は、支出が収入を大きく上回り、収入不足となるのが通常です。

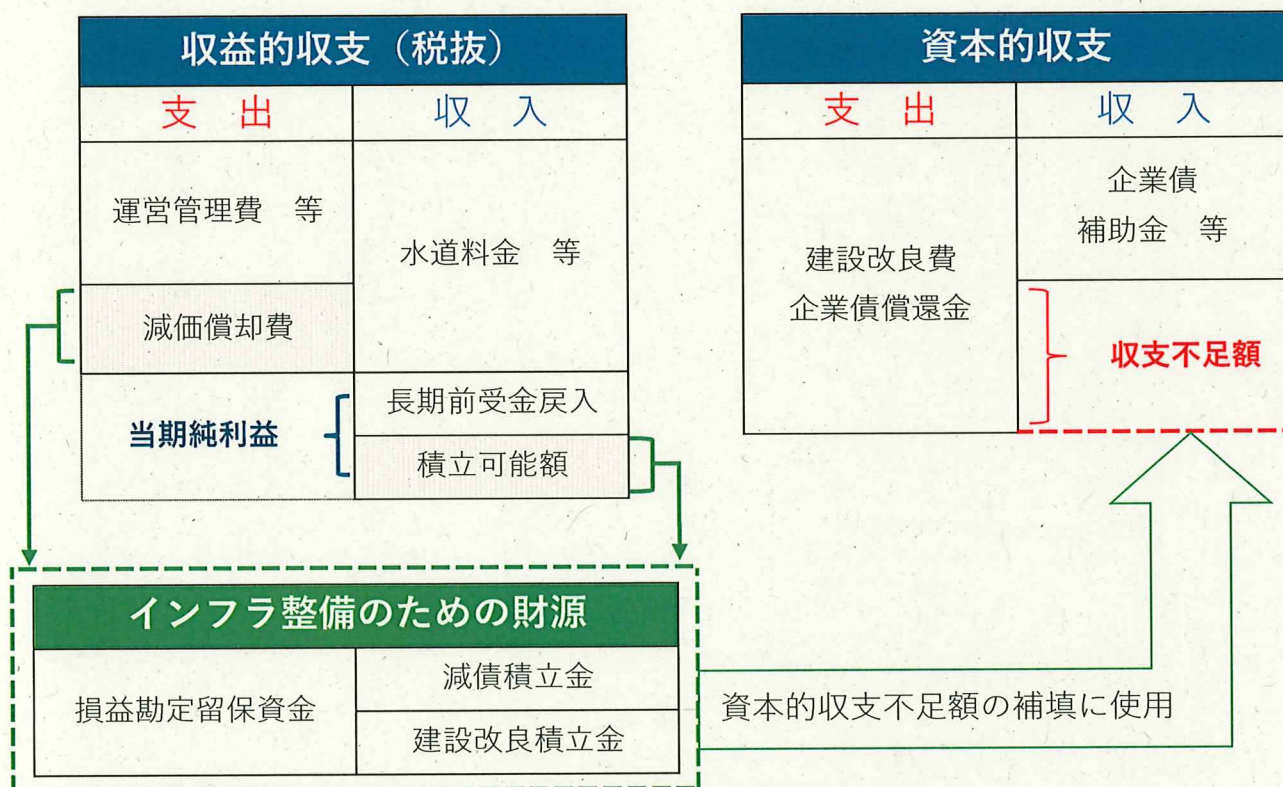
不足する金額は、収益的収支で蓄えられた内部留保資金等で補填することになります。

## § 4 収益的収支と資本的収支の関係

### 1 2つの会計の関係

インフラ整備（資本的収支）で発生する収入不足を，収益的収支で発生した利益等で補填します。

施設を正常に稼働し，安定的に水道水を供給するためには，適切なインフラ整備が必要であり，そのためにも，適切な料金設定のもと，一定の黒字を継続していく必要があります。



※収益的収支で利益を出し，資本的収支の不足額を補填するまでが一連のサイクル

### 2 まとめ

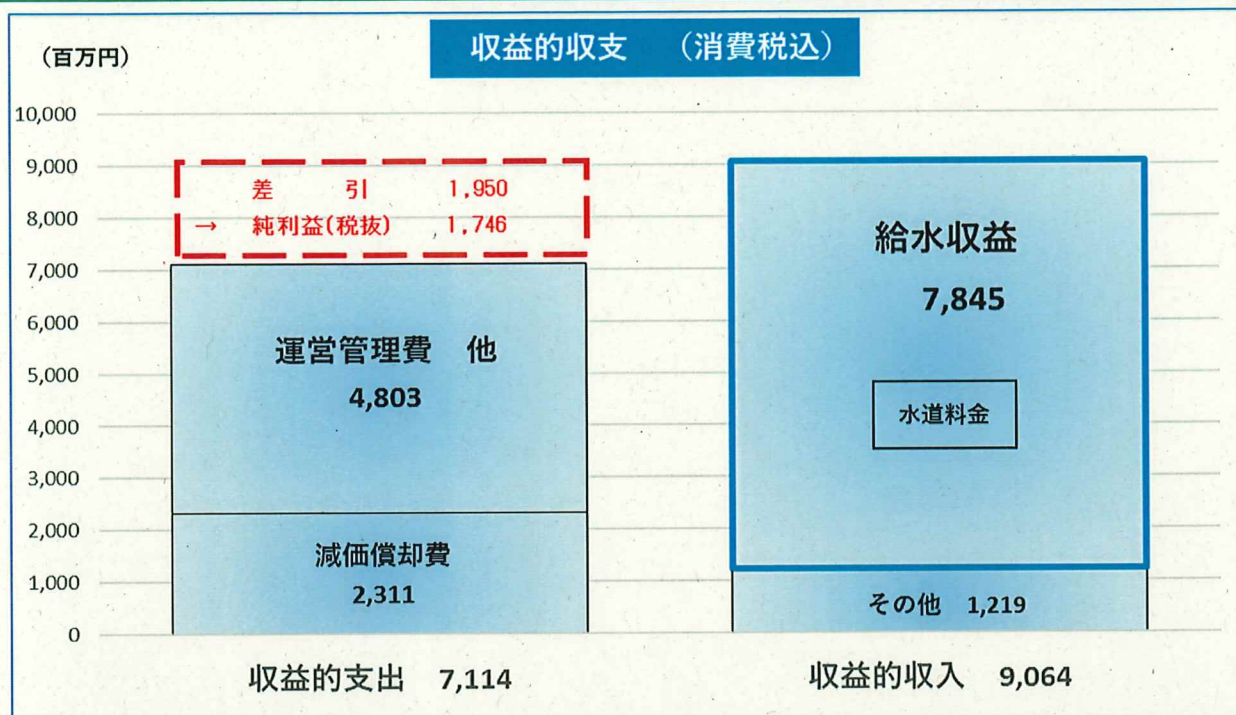
水道事業会計は事業の経営成績を示す収益的収支とインフラ整備状況を示す資本的収支の2本立てで構成されています。

水道事業の状況を正しく把握するには，どちらか一方の会計を見るだけでは足りず，収益的収支と資本的収支の両方に注視する必要があります。

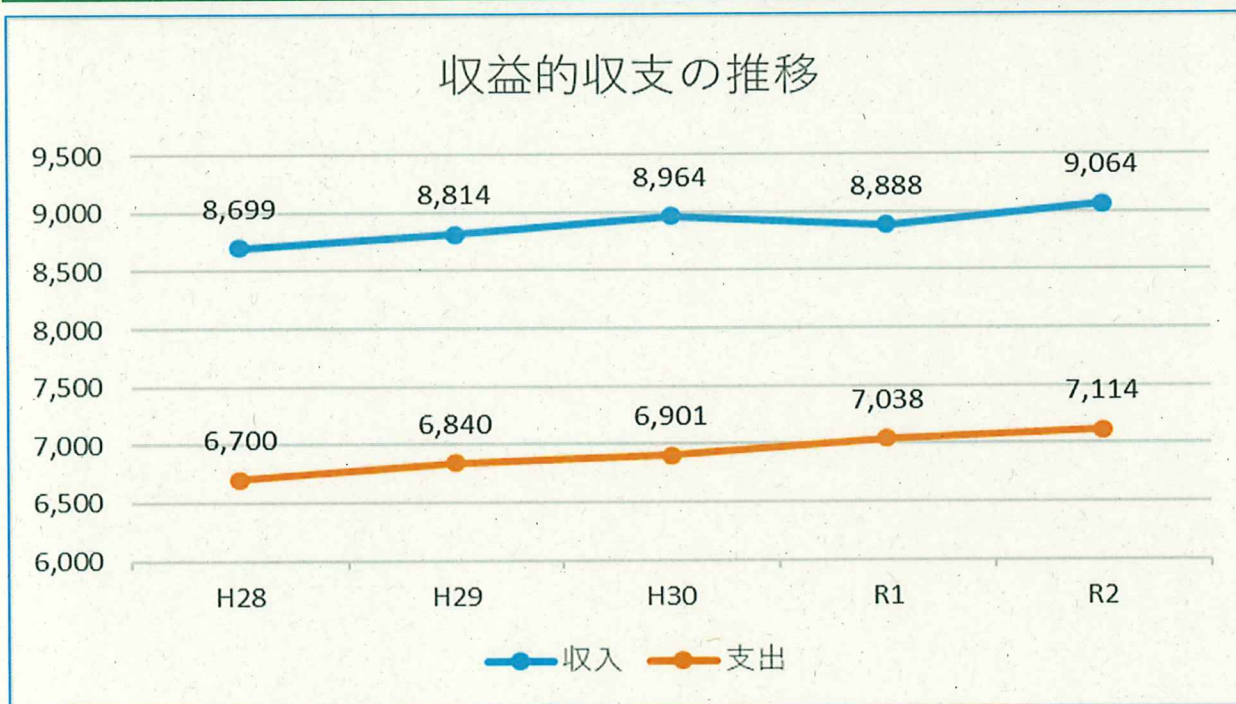


## § 5 令和2年度の決算の概要

### 1 令和2年度 収益的収支決算額 (単位：百万円)



### 2 過去5年の収益的収支の推移 (単位：百万円)



令和元年度に対する主な増減要因

〔収益的収入〕

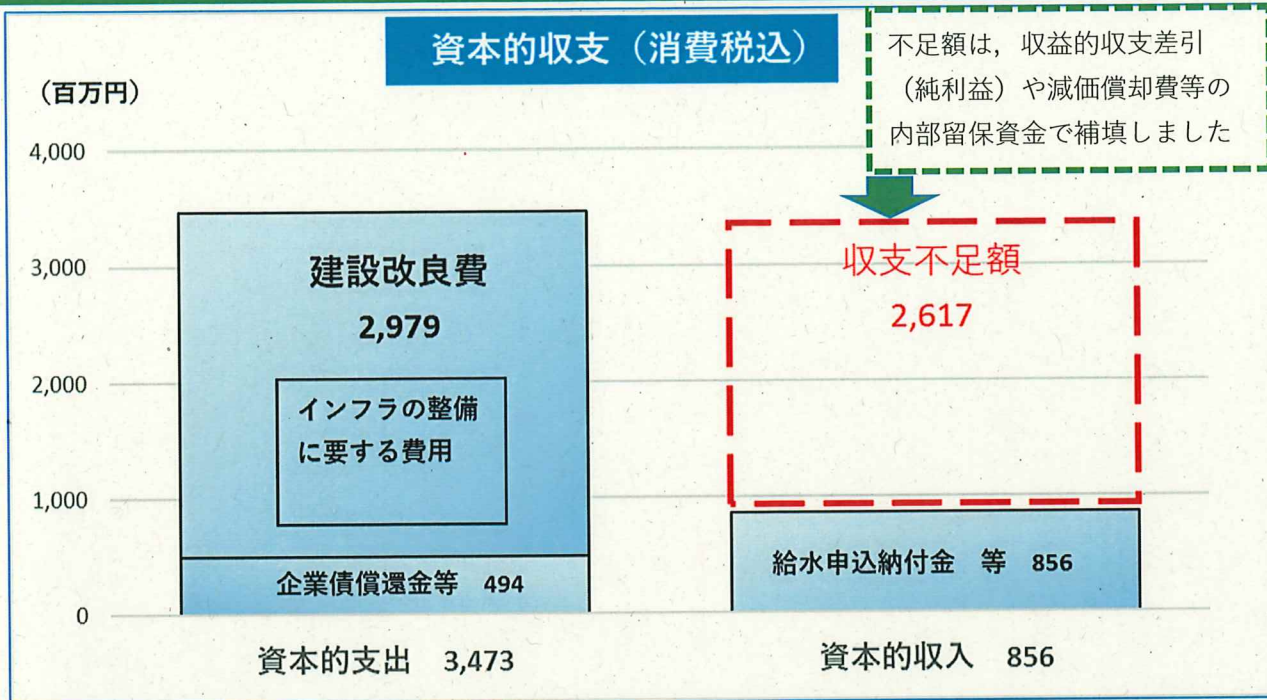
給水収益：+約1億6,000万円  その他営業収益：△約3,500万円  長期前受金戻入：+約5,400万円

〔収益的支出〕

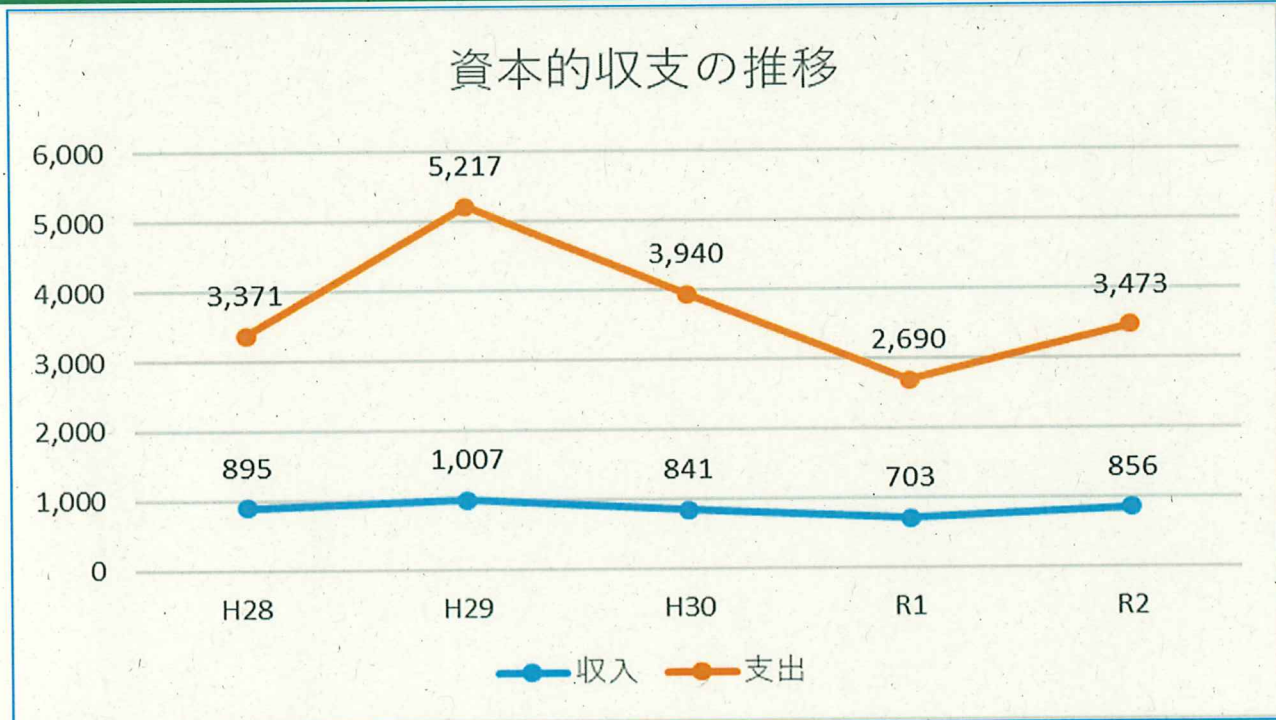
原水及び浄水費：△約1億7,600万円  業務費：+約5,000万円  減価償却費：+1億7,500万円

## § 5 令和2年度の決算の概要

### 3 令和2年度 資本的収支決算額 (単位：百万円)



### 4 過去5年の資本的収支の推移 (単位：百万円)



令和元年度に対する主な増減要因

〔資本的収入〕

工事寄付負担金：+約7,200万円 補助金：+約5,000万円 給水申込納付金：+約2,700万円

〔資本的支出〕

建設改良費：+約7億5,500万円 企業債償還金：+約2,800万円



# § 5 令和2年度の決算の概要

## 5 主要事業

### 老朽管の更新・耐震化

- ・ 執行額 約16億946万円
- ・ 更新延長 約14.1 km
- ・ 管路耐震化率  
R1年度：30.6%→R2年度：31.9%



### 水道部庁舎再生備

- ・ 執行額 約6億8,319万円
- ・ 工事進捗率（建築） 74.0%
- ・ 工事進捗率（機械） 66.2%
- ・ 工事進捗率（電気） 51.5%



### 新設管路の布設

- ・ 執行額 約2億8,170万円
- ・ 布設延長 約4.4 km



### 老朽設備の更新

- ・ 執行額 約1億9,991万円
- ・ 電気計装設備の更新（第四水源地 他）



### 水源地施設の耐震化

- ・ 第五水源地着水井更新工事をR元年度からR3年度までの3年継続事業で実施中
- ※ R2年度決算の執行額は無し。
- 工事契約総額：4億4,330万円



### 危機管理体制の強化

- ・ 執行額 約2,271万円
- ・ 災害対策用物資の購入 約2,139万円  
発電機, テント, 保存水, マスク等
- ・ 中型免許取得の研修費 約132万円





## § 5 令和2年度の決算の概要

### 6 経営状況と課題

#### 【経営状況】

- 令和2年度は、コロナ禍においても安心安全でおいしい水の安定給水を維持し、主要事業も概ね計画どおり進捗しました。
- 新型コロナウイルスの影響により、工場・店舗など大口需要者の水道使用量は例年と比べ大きく減少し、料金の平均使用単価も低下しました。  
一方、外出自粛等の影響から、主に家庭用で使用されている口径20mm以下の水道使用量は増加しており、給水戸数の増加もあり、給水収益は前年度をやや上回りました。
- 収益的収支においては、約17億4,600万円の当期純利益（税抜）となり、次年度以降の資本的収支不足額を補填する財源の一部となります。
- 資本的収支においては、約26億1,700万円の収支不足となりましたが、前年度の利益を処分して積み立てた積立金や、減価償却費等で確保した内部留保資金等で補填しました。
- これらの結果、令和2年度末の内部留保資金残高は約94億200万円となり、次年度以降の資本的収支不足額の補填に備えています。

有収水量比較

(単位：m<sup>3</sup>)

	φ 20mm以下	φ 25mm以上	合 計
R 元	32,915,119	5,497,461	38,412,580
R 2	35,040,432	4,809,140	39,849,572
増減	2,125,313	-688,321	1,436,992

内部留保資金残高の推移 (単位：百万円)





## § 5 令和2年度の決算の概要

### 【経営課題】

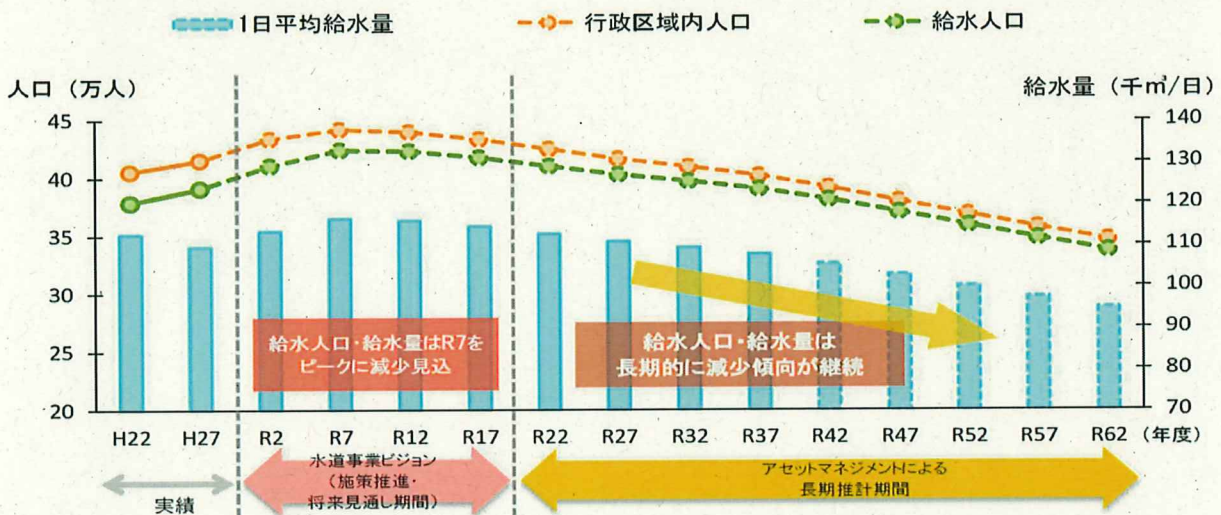
○令和7年度をピークに人口が減少に転じ、水需要と料金収入は減少していく見通し

○老朽化した施設や管路が多く存在し、今後、更新需要は増大していく見通し



今後でもできる限り現在の料金水準のもと安定給水を維持していけるよう、水道ビジョンに掲げた施策を着実に推進し、経営基盤の強化に努めます。

### 水需要の見通し



### 事業計画及び更新基準年数に基づく更新需要

